

那の津会九重愛好会 第12回登山 報告

錦秋紅葉観賞登山（計画：長者原～三俣山、牧ノ戸峠～扇ヶ鼻）

2017年10月20日（金）～10日（土）、九重飯田高原馬子草温泉民宿きづな

参加者：長崎、山田、御厨、和田、永田、前田、堤、馬場、北内、挾間（以上10名）

第12回目を数える今回は、緑の安全推進協会OBの馬場洋子さんが新たにメンバーに加わり、10名の参加で前回同様盛況となりました。あいにく2日間とも悪天候。それでも初日は冷たい風雨の中、8名が三俣山山頂付近の紅葉絶景ポイントを何とか目指しましたが天候回復の望みもむなしく結局、すがもり越までで引き返すことになりました。有り余ったエネルギーは馬子草温泉(含茫硝重曹酸土類泉)で発散した模様。

恒例となった夜の九重愛好会シンポジウムでは、長崎さんの「九重の四季」、北内さんの「サボテンのコレクションほか」の前座の後、和田さんの「インドの宗教と文化」の”講演”など、お三方の貴重なスライドと蘊蓄を傾けた話題に聴き入りました。なお、坂口さんからは「高山の花」が予定されておりましたが、用意した画像ファイルをパソコンに読み込めず残念でした。次回の愉しみとしましょう。

詳しくは今回初参加の馬場さんから寄せられた紀行文をご一読いただくとともに長崎さんの写真集をご覧ください。

なお、次回第13回は場所趣向を変え「祖母傾山系のアケボノツツジ鑑賞登山」（豊後大野市宿泊）とし2018年5月4日(金)～5日(土)、さらに第14回は「九重ミヤマキリシマ鑑賞登山」6月8日(金)～9日(土)に決定しました。皆様、今のうちから予定に入れておいてください。多数の参加をお待ちしております。

那の津会九重山の会に参加して

馬場洋子

今回初めて参加させていただきました。

山行は半世紀前に行ったきりで、まず山の道具揃えから、また体調もいまいの日々九重に行き、体調回復を願ってです。

まるで来年度小学校に上がる幼稚園生で長崎さんはじめ、皆様にはお世話になりました。殊に御厨さんからお声かけ戴き、手取り足取りお世話になって、この私が九重に行けたのはまるで夢のようです。

行って初めて登山にはなにが要るのかどうしていくのか、久々に山の空気に触れ元気をもらえました。

つい先日、太宰府の秋思祭に参りましたが、そういえば昨年旧暦の9月9日は高浪前会長のお通夜の日で、その席で御厨さんにお会いでき、そのご縁でこのような会にお誘いいただけたと思い出したことでした。

長者原ビジターセンターから木道を通り、タデハラ湿原、ブナの森の散策路を歩き、水ゴケの楽園ゾーンを通り、またきれいな赤い実にハッとし、整備された道に出るとグミの実、左手に三俣山を眺め、旧硫黄鉱山道を歩くうちになんと諏蛾守り峠近くの見晴らしのいいところまでも連れて行っていただけました。

そこからの下りは登るときには気が付かなかったダム、キツリフネソウや紅葉をみているうちに、なんと九重登山口と書いた標識があるところにたどり着いたのです。横を流れているのが白水川だということ、本当に凄いところに連れて行って頂いたのに改めて感慨ひとしお。また、登山口には九重地藏様や入山届のポストがあり、そうなんだと改めてお参りしました。

夜には飯田高原の宿で、みなさまの素晴らしいスライドを拝見。長崎さんのこれまでの九重山の会の歴史、雪景色、紅葉、ミヤマキリシマなどなど。特にびっくりしたのがクジュウフユシヤクの害でミヤマキリシマが咲いてない光景、でも翌年は見事にさいたというお話し、北内さんの月下美人をはじめとするサボテンの花の数々と「サボテンとは・・・」という深いお話し、和田さんのインドの宗教の多様性と寛容性についてのうんちく、二次会では坂口さんの山のご本、北内さんからはケンポナシ、ヒノキバヤドリギの実物を見せていただいたり、本当に楽しくも稔り多い九重行でした。

私のような幼稚園生までも含めて、雨模様の中 皆さんを引き連れ計画 実行してくださった長崎さんの懐の深さ 本当にありがとうございました。

次回は、少しは余裕を持って参加させて頂けるかしらと思っております。よろしく願いしております。御厨様本当に足手まといでしたでしょうがおかげさまで私のようなものが参加できたことにただ感謝です。

ハラハラドキドキしながら参加させて頂いたのですが、皆様の寛容なご配慮ありがとうございました。